



牛を使った代かき・旧白水村・1961年6月（熊本日日新聞社提供）

2009
6月

牛は昭和30年代のトラクター

昭和30年代まで、牛は農作業に欠かせない役牛として農家で飼われ、今の耕運機やトラクターの役目を果たしていました。牛の飼料は草原の草。当時の農家の少年たちは、学校から帰ると草原に続く坂道を登って草原に行き、草を切って持ち帰るのが日課でした。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				



野草地環境保全計画（牧野カルテ）づくり

環境省では、牧野組合ごとの野草地保全の計画づくりを進めています。組合員が主体的に現地調査や関係者へのヒアリングを行い、その結果を踏まえて今後の牧野の利用や維持・管理の計画を作っています。





根子岳とうきび畑・高森町・1961年7月（熊本日日新聞社提供）



八坂神社の夏祭り・旧白水村・1972年7月（熊本日日新聞社提供）

7²⁰⁰⁹
月

阿蘇の農業を支える草原

阿蘇の農業は火山灰質土壌、高冷地という厳しい条件のもとに行われてきました。草原の野草は、牛糞と混ぜた堆肥や緑肥として使われ、阿蘇の農業に欠かせないものでした。また、豊作を祈願する祭りも各地で行われています。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20 海の日	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



阿蘇草原再生シール生産者の会の支援

環境省では阿蘇草原再生シール生産者の会の活動を支援しています。生産者の会では、野草を使った野菜の栽培や販売のほかに、農林水産省の助成を受け、農業者による野草利用についての意向調査なども行っています。

